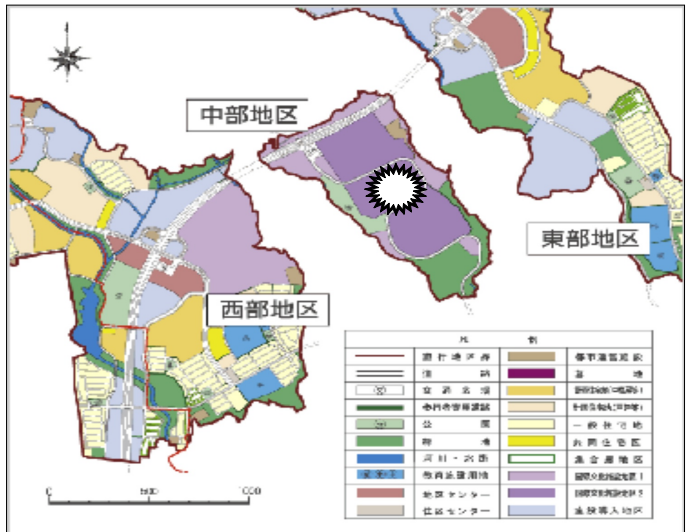


懸念される環境悪化と交通渋滞 大阪府茨木市彩都中部地区に フロロジスが (本社アメリカ大型物流施設管理・運営不動産会社) の大型物流施設開発計画決定を発表

当該の計画用地はフロロジスがすでに2012年6月に都市再生機構による彩都特定土地区画整理事業保留地(80,243㎡-甲子園球場2ヵ所分)を茨木特定目的会社名義で、約50億円(㎡単価約6.3万円)で取得していたもので、2013年11月末に正式に計画概要の発表を行いました。既にフロロジスは日本国内で関東や関西地域を中心に18箇所で、物流



施設のテナント経営を展開しており、茨木の計画は国内最大としています。立地の彩都中部地区はもともと第三セクター国際文化公園都市株式会社が土地を取得して、国際文化施設地区として、主としてバイオテクノロジーの研究施設等の建設が予定されていた地区です。ところが西部地区も含めて研究施設の誘致が進まず、第三セクターも解散し取得用地を阪急不動産(株)に売却し、その救済のために2011年に都市計画用途地域を住居系から物流施設建設可能な準工業地域に変更したものです。市民会議はこの変更について、「製造施設や物流施設など具体的には工場や倉庫など建設で、西部地域をはじめ周辺の住環境を悪化させ、住民の財産価値を低下させるとともに、今後の彩都や茨木市の街づくりに重大な障害になる」として強く反対しました。